学校関係者評価

1　全体

・学校自己評価により課題が明確になっていることから、取り組みがされていることが分かる。生活環境への支援から始まり、学校側の細やかな対応が評価の結果となっている。

・自己評価は、一目で傾向が判りやすい。

・詳細に前年との比較や分析を行い、改善のための方策や課題を明らかにしている点が評価できる。コロナ禍ということで大きな制約を受け、医療に携わる専門学校として果たす役割は非常に大きい。

・素晴らしい理念のもと、大きく深い立派な目標に向かって進んでいる様子がよくわかる。

・項目ごとによくまとまっており見やすく、信州木曾看護専門学校の現在の状況を知ることができた。

2　項目別

（1）　大項目Ⅰ教育理念・目標

・出身地の看護師として就業できるように専門職の育成をお願いしたい。

・卒業生が長野県内に就職する割合が高く良い。

（２）大項目Ⅱ学校運営

・地域の看護人材確保のため尽力していることに感謝。コロナ禍にあって、学校運営には何かと苦労があると思うが、引き続きよろしくお願いしたい。

（３）　大項目Ⅲ教育活動

・コロナ禍の中、感染症対策を行ったうえで、最大限での教育活動を行っていることが拝察される。

（４）　大項目Ⅳ学修成果

・コロナ禍で大変な状況があったと思うが、国家試験の合格率も高く指導の結果と考える。

・国家試験などの学習成果も良いのではないか。

（５）　大項目Ⅴ学習支援

・コロナ禍において講義や実習など予定どおり行えなかったと思うが、対応を工夫して実施したと思われる。学校としての支援が、より必要になっていくと思われるので、生徒に寄り添い課題を一つずつクリアして地元に根差した看護師を育てていってほしい。

（６）大項目Ⅵ教育環境

・コロナ禍で、教育活動に伴う環境の変化と対応に苦労がうかがえる。予期せぬ制約のなか、可能な限りの学生の学びの環境づくりに敬意を表する。

・コロナ禍による教育活動の影響（妨げ）が非常に懸念される。新型コロナウイルス感染症が学生に及ぼした影響（学業に対する精神的な影響など）を集約するがある。

・環境整備（Wi-Fi 環境など）計画され、早期の実現ができると良い。

・ネット環境の整備は費用的に難しいと考えるが、今後、学生の経済的支援の一つとして、宿舎や寮なども可能であれば、完備で来たらいいと思う。

・コロナ禍で、実習が普段より減少することが予想されるなか、卒後に結び付けられるような工夫が必要。

・コロナ禍の中での学校運営の舵取りは難しいものであったと思う。Zoom や新たに取得した研修棟を使用するなど、継続した看護教育が行えるよう対応した。

（７）大項目Ⅶ学生の受け入れ募集

・昨年度の教訓を生かし、さらにできることをやってほしい。木曽でしかできない森林に係る「環境論」や地元の食材を活かした「朴葉巻き」の実習など魅力的。このバリエーションをさらに豊かにしてほしい。

　地理的、立地的に、人口の少ない場所にあるので、このような独自のカリキュラムは。必修の看護医療系の学習以外における魅力のひとつとなる。

小中高や地元の方との地域交流等も含めた散策や課外活動なども良い機会

になると思う。また、その活動の様子や成果を情報発信することも必要だが、どのような媒体（発信手段）を用いるのかも考える必要がある。

・県立病院機構であることから財務基盤がしっかりしていること、他病院との連携やネットワークが確立していること、木曽という自然立地を活かした豊かな学生生活が保障されていること、これら三つの柱を前面に出して広く県内はもとより。隣接する岐阜県や愛知県にも学生募集をアピールしてゆくことが鍵であると考える。看護の専門性を身に着け、国家試験の合格率を上げてゆくことは当然求められると思うが、学士の立場からすると他の医療専門学校や医療短大との違いや木曽で学ぶメリットを分かりやすく伝えることが、質の高い看護学生の確保にも繋がるものと考える。

地域の食育「ほお葉巻」「そば打ち」「学外演習森林セラピー」などは、他校との差別化を図る上で魅力を感じる。さらに。地域と密着した演習、例えば御嶽山に登り高山病医療を学ぶ演習、豊かな木曽川を活かした水難救助演習等はどうでしょうか。都市部の看護学校では味わえないような自然体験を加えるのも有効ではないかと考えます。

・在籍学生に郡内出身者が思った以上に少なく、年々郡内出身者が減っているのも気になる。受験結果の表には数字しかないので、詳しく分析できないが、郡内受験者がそもそも少ないのか、受験者はある程度いるが合格基準に

達しないので結果として木曽出身の学生が増えないのか分析を行い、前者であれば郡内高等学校や郡内中学校との連携をの策する必要があり、後者であれば、郡内合格者枠を設け「育てる視点で学生をとる」という方法もあると思う。質の高い学生を確保することと矛盾するかもしれないが、自宅から通えるメリットや将来にわたって木曽を支えていく人材地域で育てていく役割も大事にしたい。

郡内中学校との連携では、中学２年生の段階でキャリア教育をカリキュラムに入れているので、が愚性の皆さんや先生方に中学生に向けて話をする機会があれば、看護を志す中学生の増加に寄与できるかもしれない。

・特色を持った学びの場が、すぐ近くにあることを中学生のような早い段階から知っておくことはその後の進路選択に結びつく可能性も高くなるのではないか。

・新しい看護大学等できているが、内容と実績により、それらを凌駕してゆくこと、また、その評価が伝わることが大切であると思う。

・看護大学の PR に「国家試験に合格できる」とあったが、安い学費で優れた人材と会い、教えられるということが分かっていく PR も必要。

・学校設立の年、木曽病院・木曽地域の医療を守る会で郡下中高生全員にアンケートを実施し、高等学校長、中学校長に志願者増のお願いをした。必要

なら訪問依頼してもよい。

・内容充実はもちろんだが、PR も必要。

（８）大項目Ｘ社会貢献・地域貢献

・優れた自治活動、地域との協働は大切。

・木曽病院では、多くの卒業生が活躍している。

・学校ができて学生が増え、通学や行事参加で町が明るくなったという評価がある。

その他

・「卒業生の就職先等」は、単年度だけでなく、複数年（直近の３年間等）のデータを掲載していただくとありがたい

・学生の背景や現状が判りやすい資料となっている。

・入学選考状況で、受験者数に対し合格者が少ない。（合格率が低い）要因は何か？

・10P、12P のレーダーチャートは分かりにくいので、カラーかいずれかを点線標記にしてほしい。（同趣旨他に２件）

・卒業後１年間の間にホームカミングデーなどの同級生と圧んる機会を作ることは、情報共有の場となりとても意義がある。しかし１年を過ぎた場合は、夜勤や休日の勤務が入ってきたり、病院内の委員会等の役員を務めていたりと余裕のない者が大半。卒業後１年を過ぎた卒業生にたいしては、ホームカミングデー等の会う機会は不必要だと思う。